

第6学年1組 図画工作科学習指導案

- 1 題材名 絵から伝える 「鳥獣人物戯画」の世界
－「鳥獣人物戯画」の謎を探ろう！－

2 題材について

鑑賞の活動においては、子どもがよさや面白さに自ら気づき、それを表現や鑑賞に生かすことができるようにすることが大切である。そのための方法として、子どもが「造形的な見方・考え方」を働かせて作品を読み取り、自分なりの意味や根拠をもって話し合う学習を取り入れていきたい。

本題材は、学習指導要領5、6年の目標の「(1) 創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。」「(3) 親しみのある作品などからよさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にするようにする。」を受けて、「B 鑑賞」における「(1) ア 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。」をねらいとしている。合わせて〔共通事項〕における「(1) イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。」についても学ばせたい。

普段あまり美術作品を目にすることのない子どもたちに、実際に美術作品に触れる経験をさせることで和の物のよさを再発見させたいと考えた。そのため本題材では、導入として、身の回りの「和の物」を調べる活動を取り入れた。集めた「和の物」は、目的や機能、役割、色や形などの特徴で分類させる。そうすることで、それらは昔の人が生活をより豊かにするために工夫してきたことに気付くことができるだろう。初めて知る「和の物」から、よさや美しさを味わい、興味、関心を高めたい。次に「和の物」の中でも絵巻物に焦点をあて、「日本最古の漫画」と言われる「鳥獣人物戯画」を鑑賞する。「鳥獣人物戯画」は動物を擬人化して描いたもので、動物の表情や動作が細やかにそして豊かに表現されており、右から左に広げていくことで次の展開を想像して読むことができる興味深い作品である。今回は「鳥獣人物戯画」の一場面に漫画のようにせりふを加えたり、続きの場面の絵を描かせたりする活動を通して、積極的に鑑賞活動に取り組みせることにより、作者の表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり、考えさせたりさせ、自分の見方や感じ方を深めさせたい。

本時では、完成した自分たちの「鳥獣人物戯画」を見合う。その際には、「鳥獣人物戯画」を鑑賞した時と同じように、友達の作品の兎や蛙などの絵から会話や物語を想像したり、筆でしか表すことのできない、墨の濃淡や余白のよさ、かすれなどの表現の仕方に着目したりして鑑賞していく。実際に自分も同じ絵を描いてみることで、描くことの難しさや楽しさに触れ、ただ見たときとは違った見方をすることができるだろう。児童がこの学習を通して、伝統的な日本美術の作品を見るだけでなく、体験することで、なぜ「鳥獣人物戯画」は今まで多くの人々から親しまれているのか考え、日本美術や伝統文化のよさを味わわせたい。

今回発表された「新学習指導要領」の「B 鑑賞(1)」にも、鑑賞の活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」について、低学年・中学年・高学年に分け示され、高学年では「親しみのある作品など」の鑑賞を通して、「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること」と書かれており、そのねらいにも合致している。

素 材	用 具
障子紙(和紙)	墨汁、面相筆、小筆、水筆ペン、水入れ、鉛筆等

3 児童の実態 (調査人数 男子11名 女子14名 計25名 実施日7月11日)

(1) 図画工作の学習は好きですか。

とても好き 7名 好き 17名

(理由: 作ることが好き・何を作ろうか考えることが好き・絵を描くことが楽しい 等)

嫌い 0名 とても嫌い 1名

(理由: 得意ではないから)

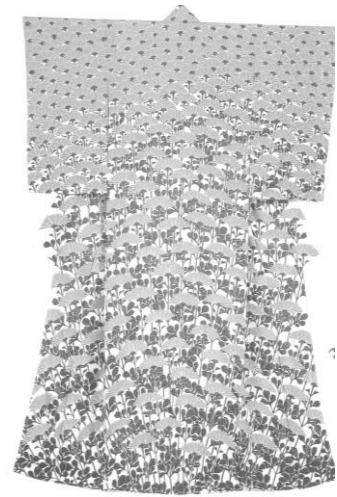
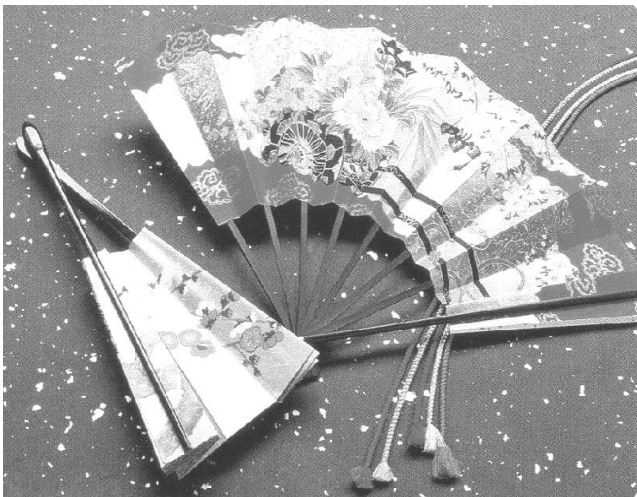
(2) 「和の物」から想像するものを書きましょう? (いくつでも)

扇子 着物 畳 浴衣 習字 障子 琴 三味線 生け花 箸 和室 寿司 湯呑 襖 書院造
風鈴 羊羹 餅 雑煮 茶 茶碗 大和絵 等

(3) 自分の家にある和の物はなんですか?

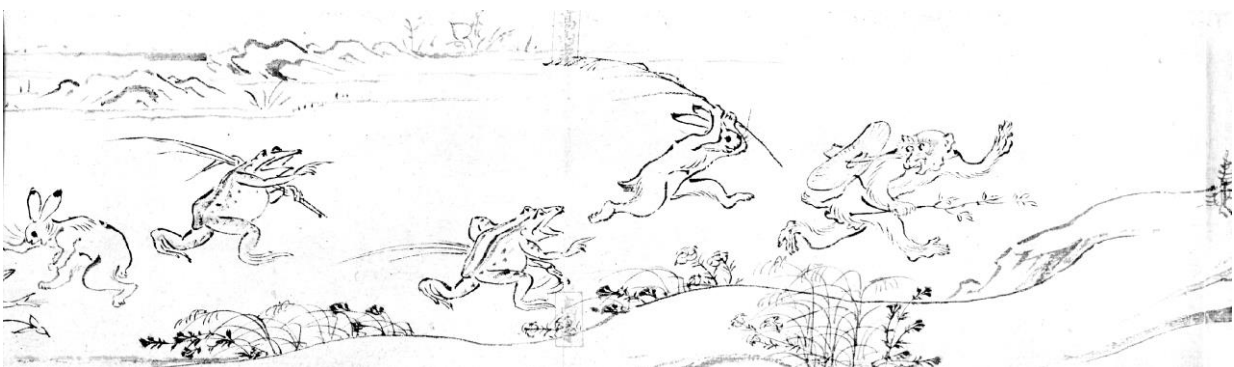
畳 習字 障子 扇子 湯呑 茶碗 浴衣 和菓子 茶 等

(4) これらの写真を見て感じたことを書きましょう。



キラキラしている・鮮やか・ゴージャス・豪華・美しい・きれい・涼しげ・落ち着く・和風・
古風 等

(5) これらの絵を知っていますか。



知っている 0名 知らない 25名

(6) 「鳥獣人物戯画」をどう思いますか。

擬人化されている・兎と蛙が追いかけている・昔の人が筆で描いた絵・猿が悪いことをしたように見える等

(考察)

本学級の児童は、明るく元気で、どんな学習にも意欲的に取り組む。また、授業中、友達と話し合ったり、意見を言ったりして考えを共有し合うことができる。図画工作の学習の中で「和の物」を取り扱うのは初めてであるが、これまでの鑑賞の学習では、友達の絵のよさを色合いや形などの観点から発見し、友達に伝え合うことができている。そのため、「和の物」を鑑賞するときにも、色や形、作り方などの観点から和の物のよさを感じ取ることができると思う。

またほとんどの児童は、図画工作の学習が好きと答えているが、若干1名、「絵がうまく描けない」、「思い通りに作れない」という理由から図画工作が嫌いだと答えている。高学年になり、どの児童も「本物とそっくりに描きたい」、「きれいに作りたい」という思いが強くなっている。このような思いは、意欲を高める一方、思うように作れないときには、辛い時間となってしまう。特に、本学級は、「上手な絵を描きたい」という思いが強くて、自分が描いたり、作ったりしたものに自信がもてない児童が多い。そのため、すぐに「鳥獣人物戯画」の場面の続きを描かせるのではなく、班で好きな場面を選び、続きの話を考え、一人一人がどの場面の絵を描くか分担し、ラフスケッチを描かせる。ラフスケッチでは、苦手意識をなくすため、下絵を薄くコピーした用紙を用意し、全体をなぞりながらも、顔や腕や足の向きを変えることで、自分の思いを表す方法を伝えた。

「鳥獣人物戯画」の続きの一場面の絵を描くときには、想像力を働かせ、面白く、楽しい絵を描くことを意識させていきたい。班の組み方は、どんな物語にしたいのか自分の意見がはっきり言えるように普段から発言の多い児童同士、発言が少ない児童同士が組むようにする。そうすることで、班でどのような物語にしたいのか想像を膨らませることができ、絵に表したいという気持ちも高まり、安心して絵を描くことができるだろう。

本題材では、絵巻物の質感を出すために和紙を使って作品をつくっていく。筆で和紙に絵を描いたことがある児童はあまり多くないため、穂先が細い面相筆、小筆、水筆ペン等を用意し、自分で使いやすいものを選べるようにする。さらに筆先を使って勢いがある線ややわらかい線などが出せるよう、事前に「鳥獣人物戯画」の兎と蛙の絵を描いて、練習をさせておきたい。

4 題材の目標

- 「和の物」探しや「鳥獣人物戯画」の鑑賞に意欲的に取り組もうとする。 (関心・意欲・態度)
- 登場する擬人化した動物のせりふや続きの一場面の絵を自分なりの発想で考えることができる。 (発想や構想の能力)
- 「鳥獣人物戯画」のよさや美しさを基に、動物を擬人化し、工夫して表すことができる。 (創造的な技能)
- 暮らしの中にある「和の物」や「鳥獣人物戯画」のよさや美しさを感じ取ることができる。 (鑑賞の能力)

5 評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
「和の物」探しや「鳥獣人物戯画」の鑑賞に意欲的に取り組もうとする。	登場する擬人化した動物のセリフや続きの一場面の絵を自分なりの発想で考えたりしている。	「鳥獣人物戯画」のよさや美しさを基に、動物を擬人化し、表現技法を使いながら表し方を工夫している。	暮らしの中にある「和の物」や「鳥獣人物戯画」のよさや美しさを感じ取っている。

6 指導計画

時	子どもの活動	○教師の支援 ●評価
1	○子どもや教師が集めた「和の物」のよさや美しさを味わい、目的、機能、役割、形や色の特徴から分類する。 (資料1)	○「和の物」には、どのようなよさや美しさがあるのか気付けるよう、たくさんの「和の物」を提示する。 ○目的、機能、役割、形や色の特徴、作り方などの視点を提示する。 ●自分たちの暮らしの中にある「和の物」について考え、分類できている。 (関心・意欲・態度) ●自分たちの暮らしの中にある「和の物」よさや美しさに気付くことができている。 (鑑賞の能力)
2	○絵巻に焦点を当て、「鳥獣人物戯画」を鑑賞する。 ○各班で一場面を見て、どんな物語が想像できるか、また、どんな特徴のある絵なのか話し合う。 (資料2)	○「鳥獣人物戯画」のよさや美しさに気付くよう、どんな物語か想像させたり、表現の仕方に着目させたりする。 ●「鳥獣人物戯画」のよさや美しさに着目し、班で協力して話し合うことができている。 (関心・意欲・態度)
3	○「鳥獣人物戯画」の表現方法を真似して兎や蛙を描く。 ○班で好きな一場面を選び、その場面に続く物語を考える。どのような絵を描くのかラフスケッチをする。 (資料3、4)	○筆先を使って勢いがある線ややわらかい線などを描けるよう練習させる。 ○「鳥獣人物戯画」の表現技法のよさを感じることができるよう兎や蛙の絵を下に敷いて写して描かせる。 ●「鳥獣人物戯画」のよさや美しさを基に登場する擬人化した動物のせりふや続きの一場面の絵を自分なりの発想で考えることができている。 (発想や構想の能力)
4・5	○ラフスケッチをもとにして「鳥獣人物戯画」の次の一場面を描く。	○見本となる作品を用意し、児童が参考にできるようにする。 ○筆先の使い方、墨の濃淡などのポイントを伝える。

		<ul style="list-style-type: none"> ●「鳥獣人物戯画」のよさや美しさを基に、擬人化した動物を使って物語のある絵を表すことができる。（発想や構想の能力） ●動物を擬人化し、工夫して表すことができる。（創造的な技術）
6 本時	<p>○友達作品を鑑賞し、各班ごとにどんな物語を想像して描いたのか、また描いてみてどうだったかを発表し合う。（資料5）</p>	<p>○何をしている絵なのか、紹介し合いながら鑑賞させる。</p> <p>●体験したことをもとに日本美術のよさや美しさを感じることができる。（鑑賞の能力）</p>

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- 自分たちの作った絵巻物のよさについて考え、味わおうとする。（関心・意欲・態度）
- 体験したことを基に暮らしの中にある「和の物」や「鳥獣人物戯画」のよさや美しさを感じ取ることができる。（鑑賞の能力）

(2) 本時の展開

学習内容と活動	教師の指導・支援 (○) 評価 (●)	資料・道具							
1 前時の振り返りと本時の活動を考える。	○実際に「鳥獣人物戯画」を作ったときのことを想起させる。	ワークシート たんけんバック 絵巻レプリカ 各班の絵巻 長机 マグネット 配置図							
「鳥獣人物戯画」の世界を味わおう。									
2 鑑賞のポイントを確認する。	<p>○どんなところに注目して鑑賞したらよいのか「鳥獣人物戯画」を鑑賞したときに出たポイントを思い出させて確認する。</p> <p>【鑑賞ポイント】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>・余白のよさ</td> <td>・線の太さの違い</td> </tr> <tr> <td>・線のかすれ</td> <td>・墨の濃淡</td> </tr> <tr> <td>・黒一色のよさ</td> <td>・にじみのよさ</td> </tr> <tr> <td>・変化をつけて描くよさ</td> <td>・勢いのある線</td> </tr> </table>		・余白のよさ	・線の太さの違い	・線のかすれ	・墨の濃淡	・黒一色のよさ	・にじみのよさ	・変化をつけて描くよさ
・余白のよさ	・線の太さの違い								
・線のかすれ	・墨の濃淡								
・黒一色のよさ	・にじみのよさ								
・変化をつけて描くよさ	・勢いのある線								
<p>3 友達の班の絵巻を鑑賞する。</p> <p>○物語の想像と作品の気に入ったところをワークシートに書く。</p> <p>【児童の姿】</p> <p>○蛙も兎も笑っているから、けんかをして仲直りをしたのだと思う。</p>	<p>○どの班の絵巻物なのか分かるように黒板に教室の配置図を掲示する。</p> <p>○どんなところに着目して鑑賞したらよいのかすぐに思い出せるように鑑賞のポイントを掲示しておく。</p> <p>○自由に他の班の絵巻物を鑑賞できるよう、プレイルームに長机を用意して絵巻物を机の上に置き、鑑賞する。</p> <p>○実際の「鳥獣人物戯画」と比べることができるよう、千葉市美術館で借りた「鳥獣人物戯画」の絵巻物を提示する。</p>								

<p>○湖の波紋を細い線で丁寧に表している。</p> <p>4 友達の作品を鑑賞し、各班ごとにどんな物語を想像して描いたのか、また描いてみてどうだったか発表する。</p> <p>5 単元を通してのまとめを行う。</p> <p>【児童の姿】</p> <p>○言葉がなくても絵の様子や表情で物語を想像しながら楽しまれてきたのだな。</p> <p>○昔の人は色鉛筆やペンがなくても筆の濃さを変えたり、線の太さを変えたりして楽しい絵を描いていたのだな。</p>	<p>●友達の作った絵巻物から、作者の意図や、表現のよさや美しさを見付けている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○絵に表す面白さや楽しさを味わわせるためにどんな物語を想像して描かれた絵なのか、自分の想像した物語と照らし合わせながら各班の発表を聞くようにする。</p> <p>○「鳥獣人物戯画」を鑑賞したときと実際に絵巻物を作ったときを比べて分かったことや気付いたことに着目して発表させる。</p> <p>○日本が昔から生活の中で親しまれてきた「鳥獣人物戯画」がどのような楽しみ方をされてきたのか体験したことをもとに想像させ、日本美術のよさを感じさせる。</p> <p>●暮らしの中にある「和の物」や「鳥獣人物戯画」のよさや美しさを感じ取ることができている。 (鑑賞の能力)</p> <p>●体験したことをもとに日本美術のよさや美しさを感じることができている。 (鑑賞の能力)</p>	
---	--	--

参考資料

鳥獣戯画 BAG BOOK	宝島社
筆ペンで描く 鳥獣戯画	宝島社
おしゃれに描ける 水墨画	講談社
鳥獣人物戯画 コンパクト版 日本の絵巻6	中央公論社
鳥獣戯画の謎	宝島社
新・図工のABC	日本文教出版